

広報



ときめき きらめき いきいきを伝える

Seki

せき

2015

10

No.1656

特集 刀は好きですか? …P2~4

TOPICS

刃物まつり…P5

市制記念日表彰…P7

あんなこと、こんなこと…P23

お知らせ…P24~32

文化会館・図書館…P33

しあわせヘルスだより…P34,35

この輝き、すてきです!! (研師伊佐地昌充さん作業場にて)

刀は好きですか？

世間は空前の刀ブーム。

「刀剣女子」なる刀好きの若い女性たちを始め、関鍛冶伝承館の来館者も着実に増えているとか。

関市は鎌倉時代から受け継がれる刀鍛冶の技術に代表されるとおり、日本屈指の刀のまち。現在も刀づくりにおける卓越した伝統技能は健在です。

今月は元せき親善大使を務め、ひそかに？刀剣女子だという奥村里香さんに、刀の世界を紹介してもらいます。



この輝き・・・シルエットが最高♡



関市は刀匠だけではなく、研師や鞘師、柄巻師といったさまざまな職人が集住している街、ということが大きな特徴だそうです。刀づくりの技術はそのまま刃物製品の一大産地へと発展、受け継がれてきました。

井戸さんおススメの鑑賞法は、刃文、装飾、地金といった総合的な刀の美しさを堪能すること。また見る角度や目線の高さによって、その姿が変わるので、いろんな位置からじっくり見てほしいとのこと。アニメやゲームがきっかけでも、若い方に刀に興味をもってもらえることは、とてもうれしいよと語っていただきました。これを機に、市民の皆さんにもぜひ、関鍛冶伝承館に来て、関市の刀剣文化に触れてほしいと思います。

関伝日本刀鍛錬技術保存会会長 井戸 誠嗣さん

さまざまな刀職人が集住する街・関



刀匠（とうししょう） 尾川兼國さん
 刀の成否を決める技

刀匠の仕事は刀身を形作ること。砂鉄から造られた玉鋼を熱し、折り返したとき、不純物を取り除いていく...沸かして叩き出すと言われる作業を繰り返します。こうしてできあがった純粋な地鉄は、硬さなど質において均一な状態に仕上がっています。そして、さらに古鉄を混ぜたり、鍛錬の仕方などを創意工夫し、オリジナルの刀身を求めていく。刀匠の技で刀の出来栄が決まるんです。

ところで、刀の顔ともいえる刃文は、刀匠によって焼き入れられ、それぞれに決まった文様があります。刀身に土を塗り、その上に描いていきます。焼き入れすると土の厚い薄いで温度差が生じ、あの独特な文様が生まれます。ちなみに尾川刀匠の刃文は「涛瀾乱刃」という大波を表現したものです。すごくかっこいいですよ。



研師（とぎし） 伊佐地昌充さん
 刀に命を吹き込む



指...大丈夫ですか？

作業中は集中するので切ることはないですよ(笑)



研師の仕事は文字どおり刃を研ぐこと。刀匠から引き受けた刀はまだ粗い状態で、面がごぼごぼしています。それを平らにし、刀の顔とも言われるべき刃を、光り輝く美しい姿に整えていきます。刃の仕上げに仕上げ、光に照らしながら常に表面を確認します。

だいたい1週間ぐらいで仕上げられるそうですが、新規で制作する以外に、古い刀をよみがえらせる修復作業も受けられます。

伝統を守りたいという思いでこの道を志した昌充さん。真剣なまなざしで、刀に命を吹き込む研師としての姿に、何だか誇りを感じました。



うわあ、すごく滑らか

